



福祉避難丸 No. 6

宮城県仙台市宮城野区田子字第223 2011年5月1日発行

発行元: 宮城野の里内 マルフク(福) ☎ 022-388-8777 FAX 022-388-8778

発行責任者: 相馬由里(千葉) ※ご意見・ご感想など連絡は marufuku@miya.kou-suku.or.jp はこちらまで...

支援者みなの声

今回の震災で自分にはどのような支援ができるのか正直わかりません。ここマルフクに来ました。来たときは、何をしたらいいんだろうかと戸惑うこともありましたが、日が経つにつれ、マルフクにいる利用者さんに対して、心のケアが必要だなと気付きました。不安なくマルフクを家だと思っただけ一日一日を過ごせるように自分なりに頑張ったつもりですが、自分ひとりではなく、いっしょに過ごした支援者の方達と一致団結したからこそ可能だったと思えます。一年たつたことなれど経験ができました。本当にありがとうございました。

O・M さん (北海道)

「マ」は「リカバリー」由でした。でも、何もできなかったように思えます。生きること、支えること、お互いさまの関係です。「全」で「大」変です。いろいろなことを心に刻んで、平塚からも支えていけたら、と思えます。ありがとうございました。

K・M さん (大坂)

最初はマルフク利用者の皆さんに、何か声をかけたいなと「言葉」ばかりを探していました。そんなとき、ある方が「現実」-津波の現物-生活-住居の場所、これからのこと等を話して下さりました。「笑顔で楽しくあなたに話しているが、心の中では辛く押し殺している」と...。涙が出ました。「言葉」はみつかりませんでした。でも、最後に「涙を流してあげてありがとう」と言ってくれた。握手をして下さりました。「言葉」はみつかりませんが、きっと、心にたどつた道はなにかと、思っています。

1週間、本当にありがとうございました。or.jp 出会う大切さを再確認...。利用者さんの笑顔で、真好に勇気づけられました。宮城の里のスタッフ、相馬さん、支援のみなさま、お会いできることを心から願っています。おからだを第一に。

A・k さん (北海道)

短い期間でしたが、あの1週間、できることは何にもなかったか、と考えています。利用者の方のやさしい声かけ、ともに話していたとき、笑ったこと、こちらが「頂」いたものがたくさんありました。そして、支援で出会った方々にもたくさん学ばせて頂きました。ありがとうございました。

I・A さん (大坂)

以前支援にきた「作田」の同僚です。マルフクのみならず、お話しが、本当にうけ良かったです。いろいろな経験をさせていると思えますが、みなさんこここで話してくれているのが、印象的でした。支援者の方と利用者の方たちも自分たちを支えてくれているんだ、という関係があるなあと思えました。ありがとうございました。

N・D さん (大坂)

そして、支援者の方とお会いできて、良かったです。もう一度と会いたいなと思いましたが、まずは「一期一会」。でも、その「一期」-短期間でも-一緒に過ごせたことは最高のできごとです。

(京都)

(福)のメンバーが、今後出会う場所-仙台市で...。いっしょに皆で再会したいです。

J・M さん (京都)

避難所となっている岡田小学校で4/22~4/29まで、皆さんといっしょにすごしました。40日以上たつて、避難所生活も少いづつ良くなってきて、と語っていました。23日には仮設トイレも戸がわいたとαはなや。24日には一人暮らしにフトが...。そして、773もつかれました。テレビも3台入りました。

一人暮らし大変な状況をかかえての生活ですが、色々と話してくれました。笑顔ももどけるところです。血圧の高い人、不眠で体調をくずす人が、まだまだ多いようです。救護室があれば、少しでも安心できたかと思えます。私自身も、人生の経験もさせてもらいました。

O・M さん (北海道)

いっしょにできること。それは、介護を通じて被災に合わせた方々に少しでも元気になるように、心のケアなど、いろいろな面でサポートしていきたいという思いが詰まった場所。それがマルフクです。

N さん

本当に本当に感謝の気持ちで、いっしょにすごせることは嬉しくて、いっしょに。発表とか文を書くことが苦手で、意味が分からず、感じに、なるかもしれないが、本当に言葉で表現できない以上、このことを学んで、感じてよかったです。

T さん (千葉)

4/22~4/29まで、岡田小学校の避難所で救護室にいました。避難所の人たちは、心なかに、それを「経験」している地震の記憶。いろいろなストレスをかかえ、いっしょに生活しています。はじめは、何が「できる」だろうと不安でしたが、みなさんが、救護室に血圧測定が、気軽に、寄って、話をするなかで、私自身が勇気と力を学ばせてもらいました。最後は、私たちがいろいろな教訓もらった。おたが、いっしょに声をもらい、ありがとうございました。

M・A さん (北海道)

全国からの支援の輪が広がっています!

- 北海道 新潟 茨城 東京 愛知 京都 香川 島根 熊本
 - 青森 石川 埼玉 神奈川 大坂 兵庫 大島 福岡 沖縄
 - 山形 長野 千葉 静岡 奈良 愛媛 鳥取 大分 岡山
 - 鹿児島 岐阜 福島
- ... 計31都道府県。

□は4月21日以降、支援に加わった都道府県です。また、マ-7のついた都道府県からは、岡田小学校避難所で、医療支援活動に加わっているなかとです。*支援が終了の方からの贈り物に感謝します。

マルフクにいらした方への心のケアも

マルフク開設から5週間ちよと。マルフクにいらした方も、少いづつ車も居先が、決まり、出ていく方もおられます。残された方々には「これから、わたしは、どうなるんだろう...」といった不安をかかえる人もいます。こうしたことを理解して、わたしたち支援者もかかえりを持っていきましょう。